

# 早稲田大学 図書館紀要

第 62 号



アクティブ・ライブラリの実現にむけて

深澤 良彰

図書館は知の宝庫と言われてきた。この宝庫に研究者・学生が足を踏み入れ、自らの研究・学習の役に立てるという形式で、図書館は研究・教育に貢献してきた。このために、十分な図書・雑誌などを揃え、十分な機能をもった検索システムを用意し、十分に長い時間開館する等の努力を、これまでの図書館は永年にわたり着々としてきた。もちろん、これらは未来永劫必要なことであり、今後も継続していかなければならない。

しかし、このように受動的な図書館の殻を破り、より積極的に、研究・教育に貢献していく新しい図書館の姿を考えたい。たとえば、研究者は学外の研究資金を獲得するため、多くの申請書を書く。これを図書館としての立場から支援し、より説得力のある申請書に仕上げ、獲得率を上げることは考えられないだろうか？ たとえば、学生達の協調学習において、図書館の視点からの指導ができないであろうか？

大学の研究・教育は、急速に変わってきている。この変化に対応し、かつ、自らこの変化を引き起こしていく推進力となるような能動的な機能をもつ図書館が、新しい図書館の姿であると信じる。

2015 年 3 月